

# 神奈川県の環境政策

神奈川県では、環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境分野における基本的な計画である「神奈川県環境基本計画」を策定し、これに基づき、環境政策を進めています。

なお、令和6年3月に、近年深刻化する気候変動の影響や生物多様性の損失といった危機に対応し、持続可能な社会を形成していくため、本計画を全面的に改定しました。

新しい計画は、2024（令和6）年度から2030（令和12）年度までを計画期間としています。統合的な課題解決を目指す視点を持って、施策分野間の相互関係を重視しながら、4つの施策分野と横断的な取組から成る5つの柱により取組を進めていきます。

## I 神奈川県環境基本計画

### （I）計画の概要

| 主な項目         | 主な内容                                            |                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本目標         | 次世代につなぐ、いのち輝く環境づくり                              |                                                                                                 |
| 計画期間         | 2024（令和6）年度から2030（令和12）年度まで                     |                                                                                                 |
| 各施策分野と取組の方向性 | 計画で取り組む施策の分野を設定の上、分野ごとに現状と課題を分析し、取組の方向性を定めています。 |                                                                                                 |
|              | 施策分野                                            | 取組の方向性                                                                                          |
|              | 気候変動への対応                                        | 未来のいのちを守るため、脱炭素社会の実現に向けて、多様な主体が気候変動問題を自分事化し、オールジャパン、オール神奈川で緩和策と適応策に取り組めます。                      |
|              | 自然環境の保全                                         | 生物多様性による恵みを次世代へ引き継ぐため、ネイチャーポジティブ（自然再興）に向けて、地域の特性に応じた生物多様性の保全を推進するとともに、各主体が生物多様性の理解と保全行動に取り組めます。 |
|              | 循環型社会の形成                                        | 限りある資源を有効活用し、快適な生活や良好な環境を将来の世代に引き継ぐため、廃棄物ゼロ社会の実現に向けて、あらゆる主体が資源循環（3R+Renewable）に取り組めます。          |
|              | 大気環境・水環境の保全、環境リスクの低減                            | 現在及び将来の県民の健康を守り、生活環境を保全するため、良好な大気環境や水環境の維持・向上を図るとともに、環境リスクの低減に取り組めます。                           |
|              | 横断的な取組                                          | 持続可能な社会の実現に向けて、あらゆる主体が環境問題を自分事化し、主体的に環境保全に取り組むための基盤となる普及啓発・環境教育等を推進します。                         |

## (2) 施策分野ごとの施策の柱・指標

各施策分野に施策の柱を定め、また施策の効果を象徴的に表す「指標」を設定しています。

| 施策分野                 | 施策の柱              | 指標                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 気候変動への対応             | 緩和策               | <b>■ 県内の温室効果ガス排出量（2013 年度比）</b><br><b>△ 19.3%（2020 年度）→ △ 50%（2030 年）</b>                                                                                                                                                                                                |
|                      | 適応策               |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 自然環境の保全              | 地域特性に応じた生物多様性の保全  | <b>■ 生物多様性の保全につながる活動を実施している人の割合（県民ニーズ調査結果）</b><br><b>48.8%（2022 年度）→ 60.0%（2030 年）</b><br><b>■ 県内の陸域及び内陸水域における生物多様性の保全が図られている面積の割合</b><br><b>32.13%（77,643ha）（2022 年度）</b><br><b>→ 32.20%（77,800ha）（2030 年）</b>                                                          |
|                      | 自然環境の保全に資する広域的な取組 |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                      | 自然環境の保全に向けた行動の促進  |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 循環型社会の形成             | 資源循環の推進           | <b>■ 生活系ごみ 1 人 1 日当たりの排出量</b><br><b>631 g / 人・日（2021 年度）</b><br><b>→ 608 g / 人・日（2030 年）</b><br><b>■ 産業廃棄物の排出量</b><br><b>1,714 万 t（2021 年度）</b><br><b>→ 1,826 万 t（2030 年）</b><br><b>■ 不法投棄等（不法投棄及び不適正保管）の残存量</b><br><b>15.0 万 t（2021 年度）</b><br><b>→ 前年度より減少（2030 年）</b> |
|                      | 適正処理の推進           |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                      | 災害廃棄物対策           |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 大気環境・水環境の保全、環境リスクの低減 | 大気環境の保全、更なる向上     | <b>■ PM2.5 の自動車排出ガス測定局における年平均値の全局平均値（大気）</b><br><b>8.9 <math>\mu</math>g / m<sup>3</sup>（2022 年度）</b><br><b>→ 前年度より削減（2030 年）</b><br><b>■ 東京湾の化学的酸素要求量（COD）の環境基準達成率（水質）</b><br><b>63.6%（2022 年度）→ 72.7%（2030 年）</b>                                                      |
|                      | 水環境の保全、更なる向上      |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                      | 騒音・振動等への対策        |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                      | 化学物質等によるリスクの低減    |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 横断的な取組               | 環境教育・学習の推進        | —                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                      | 多様な主体との連携による施策の推進 |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                      | その他               |                                                                                                                                                                                                                                                                          |

## (3) 計画の進捗管理及び見直し

計画の進捗状況は、毎年度、各施策分野の指標と個別計画等に基づく施策の取組状況から、分野全体の進捗を総合的に把握し、神奈川県環境審議会へ報告します。

計画期間の最終年度には、それまでの進捗状況、成果等を踏まえた課題を整理し、県民、市町村及び環境審議会の意見を聞きながら計画全体を見直し、改定します。

#### (4) 計画を補完する環境関係の諸計画

施策の各分野には、環境基本計画を補完する個別計画があり、これらの計画と整合性を図りながら、環境政策を推進しています。

##### ▶ 主な個別計画

神奈川県地球温暖化対策計画

かながわ生物多様性計画

神奈川県循環型社会づくり計画

神奈川県自動車排出窒素酸化物及び粒子状物質総量削減計画

東京湾における化学的酸素要求量等に係る第9次総量削減計画

神奈川県環境基本計画

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pf7/cnt/f1023/index.html>

